

II 特用作物

1. てん菜

(1) モノミドリ (旧系統名 T1021)

登録番号：(北海道) てん菜北海道交第15号：(農水省) てん菜農林交9号

来歴 本品種は、てん菜研究所において「モノホープ」の採種特性向上を目標として、1970年(昭45)に「TK-76mm-CMS」×「TK-105mm-0-2」を母、「NK-176」を父として交配した三系交配の三倍体単胚一代雑種である。1972年(昭47)に「T1021」の系統名を付して適応性検定試験に供試し、1973年(昭48)以降は北海道農試験場がこれを引き継いで各種の試験を行い、1979年(昭54)に優良(奨励)品種に決定した。

なお構成系統の育成経過の概要は次のとおりである。

TK-76mm-CMS：単胚細胞質雄性不稔集団「Tmm-1-CMS」に、米国系単胚種「Tmm-14」から発見したO型系統「TK-76mm-O」を連続戻交配して育成した単胚細胞質雄性不稔系統。

TK-105mm-0-2：「Tmm-14」から発見したO型系統の1つで回復型の淘汰を行ったもの。

NK-176：欧州系の材料から選抜した四倍体集団「T4n-38」からの育成系統。

特性概要 1. 葉長および葉数は中位で、草姿はやや開張型である。

2. 葉はやや淡緑色を呈し、形は楕円形。葉面積は中程度で、葉柄の長さや太さも中程度である。クラウンはやや小さく根は円錐形を呈し、長さは中、露肩および分岐根は少ない。

3. 熟期は中生種に属し、当年抽苔は少ない。

4. 褐斑病抵抗性は「モノホープ」なみのやや強、根腐病や葉腐病には弱い。

5. 根収量は「モノヒル」におよばないが、「モノホープ」なみの多収品種である。

6. 根中糖分は「モノホープ」と同程度で、「モノヒル」や「ソローベ」より高い。

7. 根中の有害性非糖分は「モノホープ」と同様に低く、製糖歩留まりは高い。

8. 採種性は「モノホープ」より明らかにまきり、種子は「モノホープ」より大きく、発芽率は高い。

栽培適地と奨励態度 全道に適するが、とくに高糖分を考慮すると道央、道南地域での適応性が大きい。また栽培上の注意は「モノホープ」に準ずる。

試験場名	栽培法	品 種 名	10 a 当 . り				根 中 分 (%)	左 比 (%)	試験年次
			根 重 (t)	左 比 (%)	糖 量 (kg)	左 比 (%)			
北海道農試	直 播	モノミドリ	4.58	102	746	102	16.44	100	1972~1979
		モノホープ	4.47	100	732	100	16.51	100	
中央農試 (沖積土)	移 植	モノミドリ	6.04	102	947	100	15.66	98	1972~1976
		モノホープ	5.93	100	945	100	15.92	100	1978

試験場名	栽培法	品種名	10 a 当り				根中分 (%)	左比 (%)	試験年次
			根重 (t)	左比 (%)	糖量 (kg)	左比 (%)			
中央農試 (洪積土)	移植	モノミドリ	4.84	100	827	100	17.07	100	1975~1978
		モノホープ	4.84	100	831	100	17.14	100	
上川農試	直播 および 移植	モノミドリ	4.69	99	809	99	17.22	100	1972~1978
		モノホープ	4.73	100	819	100	17.27	100	
十勝農試	直播 および 移植	モノミドリ	3.70	101	609	100	16.36	100	1972~1978
		モノホープ	3.68	100	607	100	16.35	100	
北見農試	直播 および 移植	モノミドリ	4.18	98	713	98	17.09	99	1972~1978
		モノホープ	4.27	100	731	100	17.18	100	
根釧農試	移植	モノミドリ	4.11	100	671	99	16.34	98	1972~1978
		モノホープ	4.12	100	681	100	16.60	100	
天北農試	直播 および 移植	モノミドリ	4.02	98	680	97	16.88	99	1972
		モノホープ	4.10	100	698	100	17.09	100	1974~1978

注) 上川農試の栽培法は1972~1974年が直播, 1975年は移植。天北農試は1972年が直播で他は移植栽培。

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和54年普及奨励ならびに指導参考事項, 22-29 (1979).
2) 佐々木正剛, 農業技術, 34, 552-555 (1979).

(2) ハイラーベ (旧系統名 HKE-48)

登録番号: (北海道) てん菜輪第16号

来歴 本品種は, オランダのファンデルハーフェ種子会社が育成したもので, 1973年(昭48)に我が国に輸入された。1974年(昭49)以降「HKE-48」の系統名で各種の試験を行い, 1980年(昭55)に優良(奨励)品種に決定した。三倍体の単胚一代雑種であるが, 構成系統は不明である。

- 特性概要 1. 葉長はやや短く, 葉数はやや多く, 草姿はやや開張型である。
2. 葉は緑色を呈し, 形は楕円, 葉面積は中程度, 葉柄の長さや太さも中程度である。クラウンはやや小さく, 根は円錐形でやや長, 露肩は中程度で分岐根は少ない。
3. 初期生育はかなり旺盛で, 熟期は「ソロラーベ」と同じ早生種に属する。抽苔耐性は強く, 当年抽苔はない。
4. 褐斑病に対しては「ソロラーベ」と同様に弱く, 根腐病や葉腐病にも弱い。
5. 根収量は「ソロラーベ」「モノミドリ」よりやや多く, 根中糖分は「ソロラーベ」よりやや高いが「モノミドリ」よりやや低い。
6. 根中の有害性非糖分は「ソロラーベ」なみで, 「モノミドリ」よりやや多い。

栽培適地と奨励態度 網走地域で「ソロラーベ」におきかえる。また栽培上の注意は「ソロラーベ」に準ずる。なお試験の結果1981年(昭56)に栽培適地として十勝, 根釧地域が追加された。

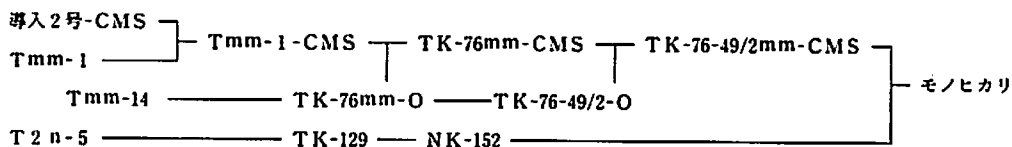
試験場名	栽培法	品 種 名	10 a 当 り				根 中 分 (%)	左 比 (%)	試験年次
			根 重 (t)	左 比 (%)	糖 量 (kg)	左 比 (%)			
北海道農試	直 播	ハイラーベ	4.43	103	706	104	15.83	102	1974, 1975 1978, 1979
		ソロラーベ	4.31	100	680	100	15.59	100	
中央農試	移 植	ハイラーベ	6.63	109	1,001	106	15.11	97	1979
		ソロラーベ	6.08	100	948	100	15.60	100	
上川農試	移 植	ハイラーベ	4.28	97	672	99	15.69	103	1978~1979
		ソロラーベ	4.43	100	677	100	15.27	100	
十勝農試	直 播	ハイラーベ	4.28	103	723	103	16.55	100	1975 1978~1980
		ソロラーベ	4.14	100	699	100	16.53	100	
北見農試	直 播	ハイラーベ	4.67	103	823	105	17.69	103	1975 1977~1979
		ソロラーベ	4.55	100	782	100	17.22	100	
根釧農試	移 植	ハイラーベ	5.12	102	842	103	16.34	101	1978~1980
		ソロラーベ	5.01	100	818	100	16.20	100	
天北農試	移 植	ハイラーベ	4.16	94	701	93	16.90	99	1979
		ソロラーベ	4.41	100	752	100	17.00	100	

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和55年普及奨励ならびに指導参考事項, 25—35 (1980).
 2) 北海道農務部編, 昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項, 71—76 (1981).

(3) モノヒカリ (旧系統名 北海41号)

登録番号: (北海道) てん菜北海道交第17号: (農水省) てん菜農林交10号: (種苗法) 第399号

来歴 本品種は, 北海道農業試験場において, 「TK-76-49/2mm-CMS」を母, 「NK-152」を父として交配した二倍体の単胚一代雑種である。1977年(昭52)より「K1019」, 1979年(昭54)以降, 「北海41号」の系統名で各種の試験を行い, 1982年(昭57)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりであるが, 母に用いた「TK-76-49/2mm-CMS」は細胞質雄性不稔系統である。



- 特性概要 1. 葉長は長く, 葉数は中位で, 草姿は直立型である。
 2. 葉はやや濃緑色を呈し, 形は皮針形で大きさはやや小, 葉面積は中程度である。葉柄はやや長く, やや細い。クラウンは小さく, 根は円錐形を呈し, 長さは中, 露肩も中程度で分岐根は少ない。

3. 抽苔耐性は「モノミドリ」よりやや弱く、年により当年抽苔することがある。
4. 褐斑病抵抗性は「モノミドリ」と同様にやや強であるが、根腐病や葉腐病には弱い。また炭そ病に対しては一般栽培品種に比べて弱い傾向がある。
5. 根収量は概して「モノミドリ」より多く、「ハイラーベ」や「カーベメガモノ」と同程度かそれ以上の収量を示す。
6. 根中糖分は現在栽培されているすべての品種より高い。
7. 根中の有害性非糖分は「モノミドリ」より低く、製糖歩留りは高い。

栽培適地と奨励態度 道央、道南地域に適し、とくに褐斑病や低糖分が問題となる地帯で従来の品種すべてにおきかえる。また、栽培上の注意は「モノミドリ」に準ずる。なお試験の結果、栽培適地として1985年(昭60)に直播栽培用として十勝中央地域とこれに類似する地域が追加された。

試験場名	栽培法	品 種 名	10 a 当り				根 中 糖 分 (%)	左 比 (%)	試験年次
			根 重 (t)	左 比 (%)	糖 量 (kg)	左 比 (%)			
北海道農試	直 播	モノヒカリ	5.15	117	905	120	17.59	103	1979～ 1981
		モノミドリ	4.40	100	752	100	17.14	100	
中央農試 (沖積土)	移 植	モノヒカリ	7.06	110	1,209	112	17.15	102	1979～ 1980
		モノミドリ	6.44	100	1,079	100	16.78	100	
中央農試 (洪積土)	移 植	モノヒカリ	5.62	105	908	106	16.21	101	1979～ 1980
		モノミドリ	5.37	100	857	100	16.00	100	
上川農試	移 植	モノヒカリ	5.31	119	936	122	17.52	102	1979～ 1981
		モノミドリ	4.45	100	770	100	17.18	100	
十勝農試	直 播	モノヒカリ	5.35	116	992	118	18.51	102	1979～ 1981
		モノミドリ	4.63	110	843	100	18.21	100	
北見農試	直 播	モノヒカリ	4.50	111	828	112	18.39	102	1979～ 1981
		モノミドリ	4.07	100	740	100	18.09	100	
根釧農試	移 植	モノヒカリ	5.03	110	889	111	17.59	101	1979～ 1981
		モノミドリ	4.57	100	801	100	17.49	100	
天北農試	移 植	モノヒカリ	4.29	114	744	116	17.35	102	1979～ 1981
		モノミドリ	3.77	100	643	100	17.02	100	

- 参照 1) 北海道農務部編。昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項。13—16 (1982)。
2) 北海道農務部編。昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項。31—33 (1985)。

(4) モノホート (旧系統名 H K E-20)

登録番号：(北海道) てん菜輸交第18号

来歴 本品種は、オランダのファンデルハーフェ種子会社が育成したもので、1963年(昭38)に我が国に輸入された。1968年(昭43)以降「H K E-20」の系統名で各種の試験を行った結果、根中糖分は高いが、根収量が劣ることが明らかとなり、1972年(昭47)に試験を中止した。その後本道におけるてん菜栽培面積の急増により、製糖工場の原料処理期間延長のため早期収穫用品種が必要となり、高糖性の本品種に注目し、1979年(昭54)より再び試験を行った。その

結果1982年（昭57）に早期収穫用品種として優良（奨励）品種に決定した。なお本品種は三倍体の単胚一代雑種であるが、構成系統は不明である。

- 特性概要 1. 葉長は中位で葉数やや多く、草姿は開張型である。
 2. 葉はやや濃緑色を呈し、形は楕円、葉面積は中程度、葉柄の長さや太さも中程度である。クラウンはやや小さく、根は円錐形でやや長、露肩はやや少なく、分岐根は少ない。
 3. 抽苔耐性は強く、当年抽苔はない。
 4. 褐斑病に対しては「ハイラーベ」と同様に弱く、根腐病や葉腐病にも弱い。
 5. 普通収穫期における根収量は「ハイラーベ」より劣り、早期収穫でもほぼ同様の傾向を示す。
 6. 根中糖分は、普通収穫、早期収穫とも根重型の「ハイラーベ」より高く、中間型の「モノミドリ」よりも高い。
 7. 根中の有害性非糖分は「ハイラーベ」より低く、「モノミドリ」と同程度である。

栽培適地と奨励態度 全道を対象とし、早期収穫を必要とする地帯で栽培する。また栽培に当っては根中糖分の低下や、有害性非糖分の増加を防ぐため、多肥や疎植栽培は避ける。

試験場名	栽培法	品 種 名	早期収穫				普通収穫			
			10 a 当り		根 中 糖 分 (%)	試 験 年 次	10 a 当り		根 中 糖 分 (%)	試 験 年 次
			根 重 (%)	糖 量 (%)			根 重 (%)	糖 量 (%)		
北海道農試	直 播	モノホート ハイラーベ	84	89	106	1981	89	91	102	1979～ 1981
			100 (3.63)	100 (542)	100 (14.95)		100 (4.74)	100 (808)	100 (17.08)	
中央農試 (沖積土)	移 植	モノホート ハイラーベ					97 100 (6.35)	101 100 (1.057)	104 100 (16.66)	1979
中央農試 (洪積土)	移 植	モノホート ハイラーベ					96 100 (6.63)	99 100 (1.001)	104 100 (15.11)	1979
上川農試	移 植	モノホート ハイラーベ					94 100 (4.09)	98 100 (683)	104 100 (15.57)	1979
十勝農試	直 播	モノホート ハイラーベ	88	90	102	1980	91	95	104	1979～ 1980
			100 (461)	100 (772)	100 (16.74)	～ 1981	100 (5.21)	100 (932)	100 (17.91)	
北見農試	直 播	モノホート ハイラーベ	82	84	102	1980	92	94	102	1979～ 1980
			100 (4.01)	100 (654)	100 (16.35)	～ 1981	100 (4.44)	100 (826)	100 (18.61)	
根釧農試	移 植	モノホート ハイラーベ					89 100 (5.35)	92 100 (933)	104 100 (17.44)	1979～ 1980
天北農試	移 植	モノホート ハイラーベ					98 100 (4.44)	101 100 (756)	102 100 (17.04)	1979～ 1980

- 注 1) 早期収穫は10月1日またはその前後（9月29日～10月3日）に収穫したもの。
 2) ハイラーベの（ ）内は実数値を示し、根重は ton、糖量はkg、根中糖分は%である。

参照 1) 北海道農務部、昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項、17-20 (1982)。

(5) ノバヒル (原名 Novahill)

登録番号：(北海道) てん菜輸第19号

来歴 本品種はスウェーデンのヒレスヘーグ種子会社が育成したもので、1972年(昭47)に我が国に輸入された。同年以降原名を用いて各種の試験を行った結果、「モノヒル」に比較して根中糖分はやや高いが、根収量がやや劣ることから、1977年(昭52)に試験を中止した。その後水田転換畑でのてん菜栽培面積の増加にともない、過湿ほ場で根腐れの少ない品種の要望が高まったため本品種に注目し、1980年(昭55)以降再度試験を行った。その結果1982年(昭57)に耐湿性がまさる品種として優良(奨励)品種に決定した。なお本品種は三倍体の単胚一代雑種であるが、構成系統は不明である。

- 特性概要 1. 葉長はやや短く、葉数は中位で、草姿は開張型である。
 2. 葉は緑色で、形は楕円、葉面積は中程度。葉柄はやや短く、太さは中位である。クラウンの大きさは中で、根は円錐形で長さは中位、露肩はやや少なく、分岐根は少ない。
 3. 抽苔耐性は強く、一般栽培で当年抽苔はほとんどない。
 4. 褐斑病抵抗性は「モノヒル」なみで弱く、根腐病や葉腐病にも弱い。しかし過湿ほ場における根腐症状は「モノヒル」より少ない。
 5. 根収量は、道央や道南では「モノヒル」と同程度であるが、道東ではやや劣る傾向を示す。
 6. 根中糖分は「モノヒル」より3%程度高く、「モノミドリ」と同程度である。
 7. 根中の有害性非糖分は「モノヒル」なみで、「モノミドリ」よりやや多い。

栽培適地と奨励態度 道東以外の全地域に適し、とくに湿害が発生しやすい水田転換畑などで「モノヒル」におきかえる。また栽培に当っては根中糖分を低下させるような多肥栽培は避ける。

試験場名	栽培法	品 種 名	10 a 当り				根 中 分 糖 分 (%)	左 比 (%)	試験年次
			根 重 (t)	左 比 (%)	糖 量 (kg)	左 比 (%)			
北海道農試	直 播	ノバヒル	4.51	97	747	98	16.52	102	1973~1977
		モノヒル	4.67	100	761	100	16.23	100	1980~1981
中央農試 (沖積土)	移 植	ノバヒル	6.29	100	980	102	15.56	102	1973~1976
		モノヒル	6.31	100	961	100	15.20	100	1980
中央農試 (洪積土)	移 植	ノバヒル	5.74	104	921	106	16.21	101	1973~1976
		モノヒル	5.52	100	869	100	16.02	100	1980
上川農試	直 播 および 移 植	ノバヒル	5.24	101	920	103	17.57	103	1973~1977
		モノヒル	5.21	100	893	100	17.11	100	1980~1981
十勝農試	直 播	ノバヒル	3.98	96	680	98	16.73	102	1973~1977
		モノヒル	4.15	100	694	100	16.39	100	1980~1981
北見農試	直 播	ノバヒル	3.94	94	692	96	17.57	103	1973~1977
		モノヒル	4.21	100	719	100	17.09	100	1980~1981
根釧農試	移 植	ノバヒル	4.35	96	725	98	16.67	102	1973~1977
		モノヒル	4.51	100	740	100	16.40	100	1980~1981
天北農試	移 植	ノバヒル	4.46	100	775	102	17.37	102	1975~1977
		モノヒル	4.44	100	759	100	17.10	100	1980~1981

注) 上川農試の栽培法は1973~1974は直播、他は移植栽培。

参照 1) 北海道農務部編。昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項。21-24 (1982)。

(6) ダイヒル (原名 Dihill)

登録番号：(北海道) てん菜輸第20号

来歴 本品種はスウェーデンのヒレスヘーグ種子会社が育成したもので、1978年(昭53)に我が国に輸入された。当初は「Hill mono 829」の系統名で試験を行ったが、1982年(昭57)からは「Dihill」の品種名で試験を継続し、1984年(昭59)に優良(奨励)品種に決定した。なお、本品種は二倍体の単胚一代雑種であるが、構成系統は不明である。

特性概要 1. 葉長はやや短で、葉数やや多く、草姿はやや開張型である。

2. 葉はやや淡緑色を呈し、形はやや皮針形、葉面積は中程度で、葉身の大きさはやや小さい。葉柄はやや細くて長さは中程度である。

3. クラウンは小さく、根は円錐形で長さは中、露肩はやや少なく分岐根も少ない。

4. 抽苔耐性は強く、一般栽培で当年抽苔することはほとんどない。

5. 褐斑病に対しては「モノヒル」と同様に弱く、過湿ほ場における湿害による根腐症状株の発生は「モノヒル」より多い。その他の病害については「モノヒル」と差がない。

6. 根収量は「モノヒル」なみであるが、過湿ほ場では根収量の低下が大きい。

7. 根中糖分は「モノヒル」より4%前後高く、「モノミドリ」なみかやや高い。

8. 根中の有害性非糖分は「モノヒル」より低く、「モノミドリ」に近い。

栽培適地と奨励態度 上川・留萌を除く道央、根釧地方を除く道東ならびに道南地域のうち湿害の恐れのない地帯を適地とする。栽培に当たっては根中糖分低下を起すような多肥栽培は避ける。

試験場名	栽培法	品 種 名	10 a 当り				根 中 糖 分 (%)	左 比 (%)	試験年次
			根 重 (t)	左 比 (%)	糖 量 (kg)	左 比 (%)			
北海道農試	直 播	ダイヒル	5.59	93	991	96	17.68	103	1980
		モノヒル	6.02	100	1,036	100	17.18	100	1982~1983
中央農試	移 植	ダイヒル	6.88	92	1,120	95	16.26	103	1980
		モノヒル	7.45	100	1,178	100	15.85	100	1982~1983
上川農試	移 植	ダイヒル	5.62	97	1,021	101	18.14	104	1980~1983
		モノヒル	5.79	100	1,007	100	17.36	100	
十勝農試	直 播	ダイヒル	5.10	95	927	99	18.13	104	1980~1983
		モノヒル	5.36	100	940	100	17.51	100	
北見農試	直 播	ダイヒル	4.28	99	778	103	18.09	104	1980~1983
		モノヒル	4.34	100	756	100	17.32	100	
根釧農試	移 植	ダイヒル	4.41	92	767	96	17.39	104	1980~1983
		モノヒル	4.79	100	803	100	16.74	100	
天北農試	移 植	ダイヒル	4.43	92	756	95	17.06	103	1980~1983
		モノヒル	4.79	100	796	100	16.62	100	

参照 1) 北海道農務部編。昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項。20-25 (1984)。

(7) モノエース (旧系統名 Kawe J137)

登録番号：(北海道) てん菜輸交第21号

来歴 本品種は、西ドイツのクラインヴァンツレーベン種子会社が1971年(昭46)から1976年(昭51)に選抜育成した二倍体単胚雄性不稔系統「MS-OA-0047」と四倍体多胚系統「PS-54-124-F」を1977年(昭52)に交配して作出した三倍体単胚一代雑種である。北海道へは1980年(昭50)に日本甜菜製糖会社が輸入した。当初「MC-80-22」の系統名が付けられていたが、1981年(昭56)に「Kawe J137」と命名された。道内では1980年(昭55)以降各種の試験が行われ、1985年(昭60)に優良(奨励)品種に決定した。

特性概要 1. 葉長、葉数は中位、草丈は「カーベメガモノ」よりやや高く、草姿はやや開張型である。

2. 葉は緑色で、形は楕円、葉面積は中程度、葉身の大きさ並びに葉柄の長さや太さも中位である。

3. クラウンはやや大きく、根は短円錐形でやや短い。露肩は中で分岐根は少ない。

4. 抽苔耐性は強く、一般栽培で当年抽苔することはほとんどない。

5. 褐斑病に対する抵抗性は弱く、根腐病や葉腐病に対しても弱い。

6. 根収量は「カーベメガモノ」と同程度である。

7. 根中糖分は高く、高糖性品種といわれている「モノホート」や「モノヒカリ」なみである。

8. 根中の有害性非糖分は「カーベメガモノ」より低く、「モノヒカリ」に次ぐ低さである。

栽培適地と奨励態度 道内全域を対象として「カーベメガモノ」におきかえる。栽培に当たっては根中糖分低下の原因となる多肥栽培は避け、褐斑病の防除を徹底する。

試験場名	栽培法	品 種 名	10 a 当り				根 中 糖 分 (%)	左 比 (%)	試験年次
			根 重 (t)	左 比 (%)	糖 量 (kg)	左 比 (%)			
北海道農試	直 播	モノエース	5.78	101	1,057	105	18.28	105	1982~ 1983
		カーベメガモノ	5.75	100	1,009	100	17.56	100	
中央農試	移 植	モノエース	6.75	98	1,168	106	17.27	108	1982~ 1984
		カーベメガモノ	6.91	100	1,103	100	15.97	100	
上川農試	移 植	モノエース	5.01	101	933	107	18.61	106	1982~ 1984
		カーベメガモノ	4.96	100	870	100	17.50	100	
十勝農試	直 播	モノエース	4.88	98	888	104	18.19	106	1982~ 1984
		カーベメガモノ	4.98	100	856	100	17.12	100	
北見農試	直 播	モノエース	4.30	101	796	106	18.43	106	1982~ 1984
		カーベメガモノ	4.26	100	748	100	17.45	100	
根釧農試	移 植	モノエース	4.15	100	757	107	18.17	107	1982~ 1984
		カーベメガモノ	4.13	100	706	100	17.05	100	
天北農試	移 植	モノエース	4.89	96	850	101	17.32	105	1982~ 1984
		カーベメガモノ	5.11	100	843	100	16.43	100	

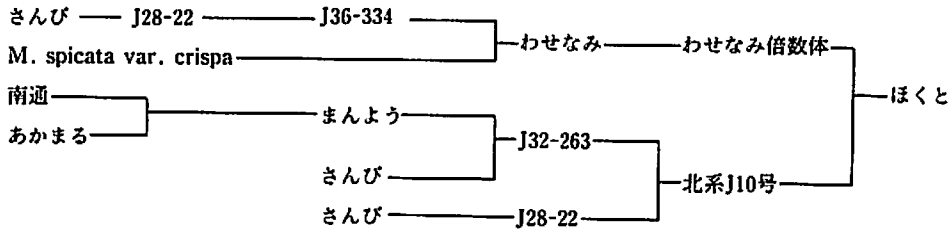
参照 1) 北海道農務部編, 昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項, 33-36 (1985).

2. はっか

(1) ほくと (旧系統名 北海J20号)

登録番号：(北海道) はっか北海道第5号；(農水省) はっか農林11号；(種苗法) 第347号

来歴 本品種は、1974年(昭49)に北海道農業試験場において「わせなみ倍数体」を母、「北系J10号」を父として人工交配を行い育成したもので、1979年以降「北海J20号」の系統名で各種の試験を行い、1982年(昭57)に優良(奨励)品種に決定した。なお本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要 1. 草丈は「わせなみ」より高く、分枝数、葉数は「わせなみ」より少ない。草姿は開張型で、茎はやや太くてやや硬く、淡赤紫色を呈する。

2. 葉は緑色を呈し、長卵形で巾がやや広く、しわが少なく、葉縁の鋸歯の切れ込みは深い。

3. 花序は「わせなみ」と同様に中間状で、花は大きく、雄ずいは正常で種子の稔性は中程度である。

4. 開花始は9月10日前後で、「わせなみ」より遅く「さやかぜ」と同じ中生の晩に属する。

5. さび病抵抗性は「わせなみ」と同程度の強。ネグサレセンチュウやピンセンチュウにも比較的強い。耐倒伏性は中程度で「わせなみ」よりやや弱い。

6. 生草収量は「わせなみ」よりやや多い程度であるが、収油率が極めて高いため取卸油の収量は「わせなみ」より38%前後多い。

7. 取卸油の採脳率は44%前後、総メントール含量は73%前後で、中脳分の低い品種に属する。またはつか脳の品質は「さやかぜ」よりやや劣り「わせなみ」と同程度、はっか油の品質も「さやかぜ」よりやや劣るが、「わせなみ」よりまさる。

8. 種根量は多く、耐冬性が強く萌芽は極めて良好である。

栽培適地と奨励態度 本道のはっか栽培地帯で、「さやかぜ」以外の品種すべてにおきかえる。また種根量が多く、萌芽が良好なため、連作畑では過度の密植になりやすいので注意し、多肥栽培は避ける。

試験場名	品種名	開花始 (月.日)	刈取期における			10 a 当り				収油率 (%)	採脳率 (%)	試験年次
			草丈 (cm)	分枝数 (本/株)	葉数 (枚/株)	生草重 (kg)	乾草重 (kg)	取卸油重 (kg)	左比 (%)			
北海道農試	ほくと	9.13	94	34	710	3,880	1,180	18.21	123	0.47	47	1979~ 1981
	わせなみ	8.31	85	36	1,210	3,680	1,160	14.83	100	0.40	52	
北見農試	ほくと	(9.2)	113	23		4,574		16.75	152	0.37	42	1980~ 1981
	わせなみ	(9.10)	107	24		4,523		11.05	100	0.24	49	

注) 北見農試の開花始は開花期を示す。

参照 北海道農務部編、昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項、25—29 (1982)。